

平成 21 年度 厚生労働科学費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合
研究事業）

「インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動の情報収集に関する研究」

分担報告書「2009/2010 シーズンにおけるインフルエンザ様疾患罹患時の異常行動（軽度）」

岡部信彦	国立感染症研究所感染症情報センター
宮崎千明	福岡市立西部療育センター
桃井真里子	自治医科大学小児科学
谷口清州	国立感染症研究所感染症情報センター
大日康史	国立感染症研究所感染症情報センター
菅原民枝	国立感染症研究所感染症情報センター

要約

目的:インフルエンザ様疾患罹患時に見られる異常な行動についての実態把握の必要があり、2009/2010 シーズン調査のうち、軽度の異常な行動に関する調査（軽度調査）を行う。新型インフルエンザの発現に伴い、例年に比べて早い段階での流行開始となり、本調査も例年に比べて早い開始となった。

方法:軽度調査はインフルエンザ様疾患と診断され、かつ、軽度の異常な行動を示した患者でインフルエンザ定点医療機関において調査を依頼した。報告方法はインターネット又は FAX とした。

結果:2009/2010 シーズンの軽度は、1003 件であった。「ないものが見えるという」、「激しいうわごと・寝言」が多かった。

A. 研究目的

インフルエンザ様疾患罹患時に見られる異常な行動の背景に関する実態把握のうち、軽度調査を昨年度に引き続いて調査を行った。

B. 材料と方法

◆調査概要

調査依頼対象はインフルエンザ定点医療機関とした。報告対象は、インフルエンザ様疾患と診断され、かつ、軽度の異常な行動*を示した患者（※何かにおびえて手をばたばたさせるなど、その行動自体が生命に影響を及ぼすことは考えられないものの、普段は見られない行動）とした。報告方法はインターネット又は FAX とした。

インフルエンザ様疾患とは、臨床的特徴(上

気道炎症状に加えて、突然の高熱、全身倦怠感、頭痛、筋肉痛を伴うこと)を有しており、症状や所見からインフルエンザと疑われる者のうち、下記のいずれかに該当する者である。

次のすべての症状を満たす者①突然の発症、②高熱(38℃以上)、③上気道炎症状、④全身倦怠感等の全身症状

迅速診断キットで陽性であった者

◆分析

本報告では軽度の分析を行う。

倫理的配慮

国立感染症研究所医学研究倫理審査を受け、承認されている(受付番号216「インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動の情報収集

に関する研究」)。

C. 結果

2009/2010 シーズンの軽度は、1003 件であった。

図 1 は患者の年齢を示した。9 歳が最も多く、平均値 8.08 歳、中央値 8 歳であった。

図 2 は患者の性別を示した。男性が 67% であった。

図 3 は最高体温を示した。39.0 度が最も多く、次いで 40.0 度で、平均値は 39.31 であった。

図 4 はインフルエンザ迅速診断 キットの実施の有無を示した。94% で実施されていた。

図 5 は薬の組み合わせを示した。タミフルのみが最も多く 16%、次いで全ての服用なしが 15%、次いでタミフルとアセトアミノフェンが 9% であった。アセトアミノフェンのみが 6%、リレンザのみが 6% であった。

図 6 は薬の組み合わせ(10 歳未満)を示した。タミフルのみが最も多く 19%、次いですべて服用なしが 16%、次いでタミフルとアセトアミノフェンが 10% であった。アセトアミノフェンのみが 7%、リレンザのみが 3% であった。

図 7 は薬の組み合わせ (10 歳代) を示した。リレンザが最も多く 13%、ついで全ての服用なしが 12%、リレンザとアセトアミノフェンが 11% であった。アセトアミノフェンのみが 4%、タミフルのみが 8% であった。

図 8 は異常行動の分類を示した。その他を除くと、「無いものが見えると言う」「激しいわごと・寝言」が多かった。次いで、「おびえ・恐怖状態」、次いで「無意味な動作の繰り返し」、次いで、「わめく、泣きやまない」であった。

D. 考察

軽度の異常行動は、平均 9 歳、男性に多い発現であった。「無いものが見えると言う」「激しいわごと・寝言」が多かった。昨年度と比較すると件数はほぼ同じであった。(2007/2008 シーズンの軽度は 520 件、2008/09 シーズンの軽度は 938 件)。性別は昨年と同様、男性が多かった(2007/2008 シーズンは 59%、2008/2009 シーズンは 65%)。

E. 健康危険情報

特になし

F. 論文発表

特になし

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

特になし

図1 患者の年齢

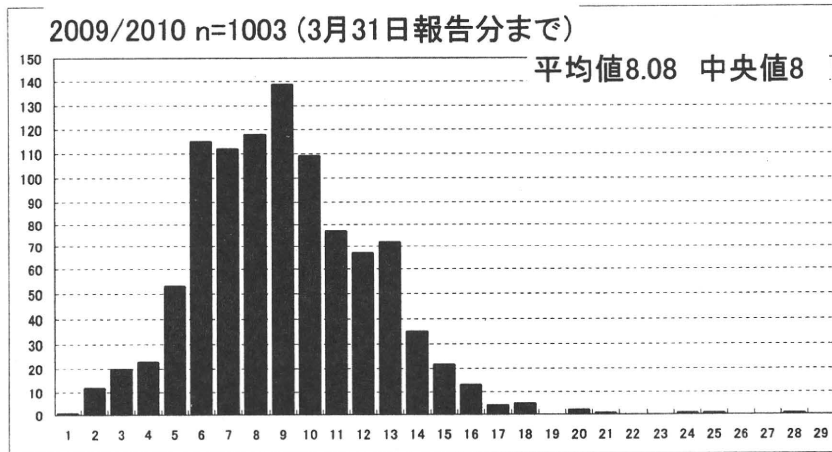


図2 患者の性別

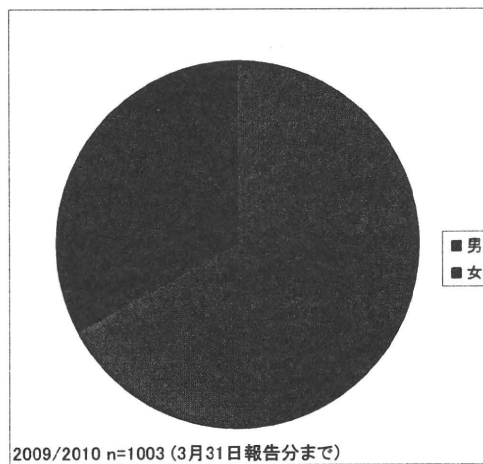


図3 最高体温

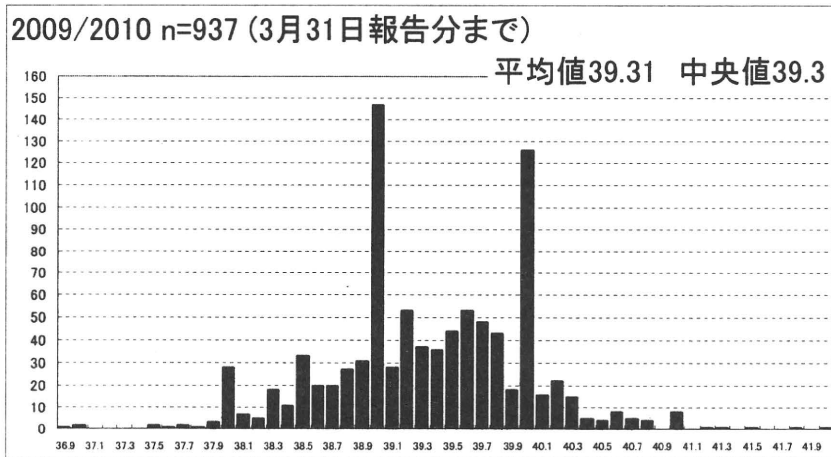


図4 インフルエンザ迅速診断キットの実施の有無

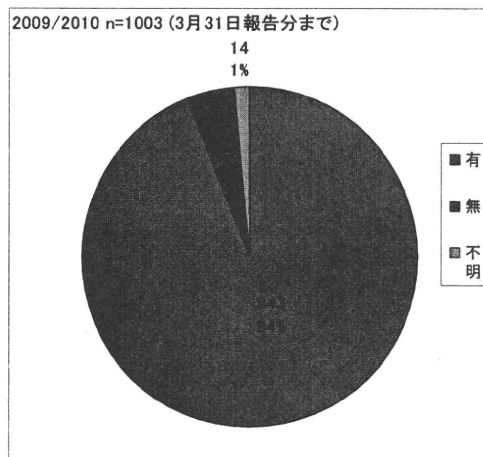
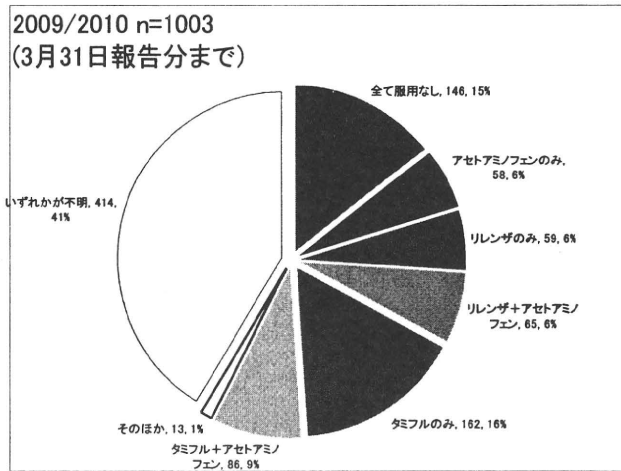
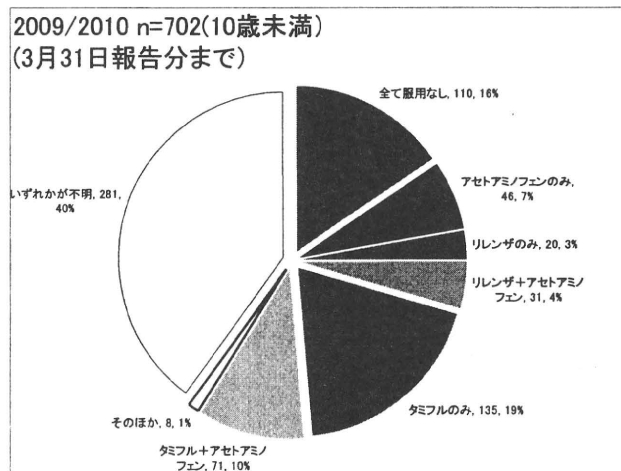


図5 薬の組み合わせ



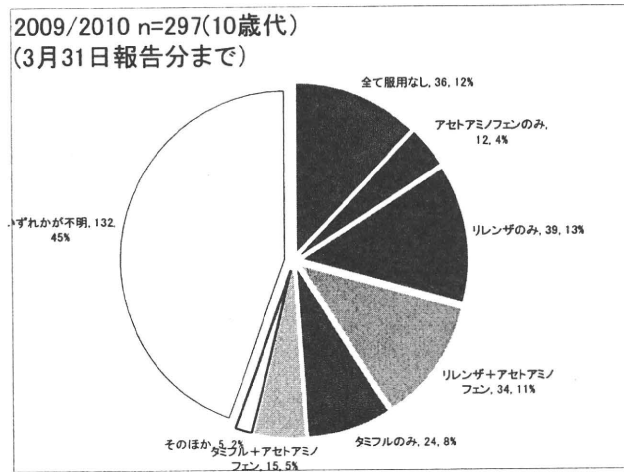
注: タミフル、シンメトレル、リレンザ、アセトアミノフェンの4剤の服用有無が明らかな症例についての内訳。
4剤のうち一部薬剤処方有り症例でも、併用状況が不明な症例は「いずれかが不明」に分類。

図6 薬の組み合わせ



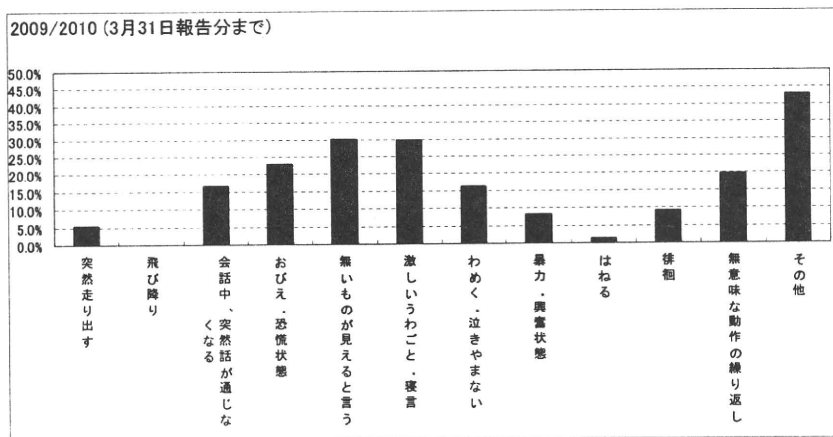
注: タミフル、シンメトレル、リレンザ、アセトアミノフェンの4剤の服用有無が明らかな症例についての内訳。
4剤のうち一部薬剤処方有り症例でも、併用状況が不明な症例は「いずれかが不明」に分類。

図7 薬の組み合わせ



注:タミフル、シンメトレル、リレンザ、アセトアミノフェンの4剤の服用有無が明らかな症例についての内訳。
4剤のうち一部薬剤処方有り症例でも、併用状況が不明な症例は「いずれかが不明」に分類。

図8 異常行動の分類(複数回答)



注:複数回答で、それぞれ割合で示しているため、合計は100%を超える。

所 長	副所長	総務部長	総務課長	総 務 課長補佐	庶務係長	係	所属部長等	勤務時間 管 理 員

復 命 書

平成 23年 3 月 15 日

所 属 感染症情報センター

氏 名 大日康史 ⑩

私こと、下記のとおり出張しましたので、その概要について復命します。

1. 出張期間	自 平成 23年 3月 9日 2 日間 至 平成 23年 3月 10日
2. 出張先	出雲医師会館
3. 出張内容	出雲での症候群サーベイランスの実施状況、特に大雪、鳥インフルエンザ対応について、医療機関、薬局、一般市民の方に説明した。また、NSIPS を用いた薬局サーベイランスについても説明した。
4. 特記事項	
5. 支出科目	先方負担

Ⅲ 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ

論文

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年

IV 研究成果の刊行物・別刷

